

アマゾン川の魚



アマゾン川には 3,000 種を超える淡水魚が生息しています。とくにナマズと、ピラニアの仲間であるカラシンの種類が非常に多いのが特徴です。世界最大の淡水魚といわれるピラルクー、電気ショックで有名なデンキウナギなど、アマゾン川には南米大陸に固有な種が生息しています。またベレン市場で売られていたように、ピラニア・コロソマ・ナマズの多くの種が重要な食用魚となっています。

ピラニアとカンディルは危険な魚として有名です。ピラニアは臆病な魚で群れを作ることを好みますが、血の匂いに興奮すると鋭い歯を使って集団で大きな獲物を襲って食べるため、現地では恐れられています。それより恐れられているのがカンディルで、大きな魚類やほ乳類に食い込んで、その肉を食べたり血を吸ったりします。そして時に人間や家畜に深刻な被害をもたらす場合があります。

今回はアマゾンの生きた魚たちを紹介するとともに、現地の熱帯魚輸出業者の施設を見学した際に見た魚たちの写真を紹介します。

ピラニア。言わずと知れたアマゾンの猛魚。約 30 種が知られています。



実は釣りにチャレンジしてみたのですがボウズ・・・。ピラニア、釣ったかったなあ。



トランペットナイフフィッシュ。
アルビノ（白化）個体で珍しいです。



おびただしい数のモンキヨコクビガメの子亀。輸出許可を得てペットとして世界中に送られていきます。



10cmくらいのピラルクーの幼魚。これが4mを超える巨大魚になるとは想像できません。



観賞用魚として人気のディスカス。親魚が体の表面から子供のえさを分泌することでも有名です。



アマゾンリーフフィッシュ
擬態の名手で、落ち葉そっくりな体をしており、獲物に気づかれないように待ち伏せして食べます。



輸出業者の施設の全景。たくさんの水槽に多くの種類の熱帯魚が飼育されていました。



プレコの1種。これもナマズの仲間です。



ペーシュカショーロ。下あごから突き出した長い牙が特徴です。



淡水エイの1種。尾部に毒の棘をもつておいて踏みつけると刺されると、ピラニア以上に恐れられています。



バスタブに入っているのは全部デンキウナギ。瞬間に最大 600 ~ 800 ボルト × 1 アンペアの電気を発生することができます。落ちたら大変。